



## 「伝える」から「伝わる」紙面作りへ 広報研修会に参加して

親しみやすい「議会だより」づくりのための研修会が、千代田区平河町の砂防会館別館（シェーンバッハ・サボー）で全国214町村議会から約700人が参加して開かれました。会場の収容人数から2日に分けて実施され、八丈町からは9月28日に議会だより編集委員（岩崎由美、沖山恵子、幸子）と議会事務局の菊池係長が参加しました。

八丈町の議会だよりは、現在4人の議員と議会事務局職員で編集しています。読みやすく議会の臨場感を伝える紙面づくりを心がけていますが、今回3人の講師の話聞いてまだまだ工夫が必要だと感じました。



### わかりやすく書くテクニック（日本広報協会 小田 順子氏）

議会広報紙の文章をわかりやすく書くには、①結論から書く ②図やイラストを入れる ③漢字を少なくする ④見出しをつける ⑤1文を65字以内にするなど具体例を挙げ、なるほどと思う指摘ばかりでした。

### 広報紙にWEB・SNSの活用（エディター 吉村 潔氏）

議決までのプロセスが見え、各議員の意思表示がわかるような構成にすること、また住民参加による座談会の企画づくりや視察報告の工夫についても提案がありました。これからの時代はインターネットやスマホ、QRコードを利用した議会報告も必要だとのことでした。

### 第31回コンクール、トップ2の紹介（議会広報サポーター 芳野 正明氏）

コンクールで入選した広報紙は、表紙に大きなカラー写真を使い、本文は2色刷りで文字も大きく、議員の写真もたくさん使うなど、読みやすい工夫がいたるところで見られました。



### 感想と課題

入賞した議会広報紙を見てまず驚いたのは、表紙に人の顔が大きく掲載されていることでした。岩手県金ヶ崎町は何組かの双子の成長を追い、幼いころの写真と5年後に成長した姿を表紙に使い、シリーズ化していました。宮城県利府町では年間のイベントやまつりを取り上げ、その時々の人々の生き生きとした表情の写真をシリーズで掲載していました。

このほか、紙面作りにたくさんの工夫のあとがみられましたが、これらを八丈町で実現しようとすると、いくつかのハードルがあります。

前ページより続く

まず八丈町では、個人が特定できるような写真は載せない、とくに子どもの写真は個人がわかるほど大きなものは載せないという暗黙のルールがあります。その理由は、「公平性を欠く」「個人が特定されると犯罪やいじめのリスクがある」などですが、子どもの写真はおおらかで好ましく、読者を元気づける力をもっているため、積極的に取り入れるべきだと私は思いました。

つぎに、八丈町の場合は予算に限りがあることです。入賞した釜ヶ崎町の人口は約16,000人、利府町は約36,000人と規模が大きく、その分お金をかけています。本文も2色刷りでページ数も多いのですが、同時に議員の写真が多く、文字が大きすぎる、全体として紙面がにぎやかすぎる、という一面もありました。

「写真やイラストを使い、空白も活用する」「わかりやすく短い文章にする」「紙面を文章だけで埋めない」「見出しだけで内容がわかるように」など、研修で学んだことをこれからの紙面づくりに活かしていきます。

## 東京都・八丈町・青ヶ島合同防災訓練

11月5日（日）

### □底土棧橋では海難訓練

八丈富士が噴火し全島民が避難を余儀なくされた状況を想定して行われました。今回は訓練なので洞輪沢港ではなく底土港で、「民間の船で自主避難する最中に海に落ちた人を救助する」という想定でした。海に投げ出された人（救命胴衣を着用）を、水上バイクから直接手を伸ばして引き上げたり、ヘリコプターからロープを使って隊員が降りてきて抱き上げて救助したりと、臨場感あふれる救出の模様を間近に見ました。訓練を受けているとはいえ、救う方も救われる方も命がけでした。



ターからロープを使って隊員が降りてきて抱き上げて救助したりと、臨場感あふれる救出の模様を間近に見ました。訓練を受けているとはいえ、救う方も救われる方も命がけでした。



### □八丈高校では各種救助訓練

体育館では、展示・物資輸送・医療救護が行われ、八高生もトリアージ（傷病の緊急性・重症度に応じて区分しタグをつける）に参加していました。グラウンドには倒壊家屋が3棟作られ、車や家屋の屋根を切断して救出場所を確保し担架で救い出す訓練が、数カ所で同時に行われていました。どこを見てもスピード感のある手際のいい動きで、住民はさすがだと感心していました。



災害時の食料についての展示もありました。なかでも自衛隊の自動調理車両（写真左）は味噌汁、カレー、ご飯など、同時に200人分が45分くらいでできるとのことです。全国各地の災害現場でこの車両が活躍していることを、私は頼もしく思いました。

数年ぶりに行われた大規模な防災訓練でした。子どもを含めて2,000人を越える住民が参加し、高校生が積極的にかかわったことで、単なるセレモニーに終わらず有意義なものになったと思います。行政の周到な準備と住民ひとりひとりの防災意識を高めることが、ますます重要になります。





# 2017年9月議会 一般質問



## 1. 離島留学制度を継続するために町ができることは

離島留学がスタートして5カ月が経った。事業の初年度には、制度にも、関わる人にも、とまどう場面がでてくるのはやむを得ないことだと思う。しかし、人材育成や町の活性化に貢献できると期待されるこの事業は今後も続けていくべきだ。どのような改善策があるのか、町の考えを問う。

- (1) 生徒の現状は (2) 寮と寮母の現状は (3) 町と高校の連携はできているか
- (4) 今年の応募状況は (5) ホストファミリーは探せたか
- (6) 事業継続のための対策はどのようなものか

町 (1) 全日制2人のうち、8月に1人が自主退学したので現在1人

(2) 8月に寮母が退職したので、現在探している

(3) 問題があるたびに町と高校と寮母と相談し連携はできている

(4) (5) ショートステイや見学は7組あったが寮母が見つからないため公募できない状況になっている

(6) 町は、広報や各種会議の場面で、また個別にもお願いしてきたが、現実的な話をするとむずかしかった。ホストが確保できない限り受け入れは困難な状況だ。

再質問 情報を共有し、町全体で支える姿勢を示すべきだ。ホストが探せないなら発想を転換し寮にシフトすべきではないか。

教育長 寮化するといろいろコストがかかる。一度立ち止まることも必要だ。

## 2. 災害時のペット同行避難を可能にするガイドラインの作成を

今年も動物愛護週間が9月20日から26日に実施される。今年度のテーマは、「ペットも守ろう！防災対策」となっている。東京都によるガイドブック「東京防災」には動物救護については一切触れられていない。一方で、動物救護マニュアルをつくっている区もある。災害は各地で起きている。ガイドラインをつくることで、飼い主の安心とマナー向上に役立つと考える。

- (1) 動物同行避難に関するガイドラインをつくる考えはないか

町 現在町では地域防災計画の見直しと避難所運営マニュアルをつくっているところだ。その中で、飼い主への普及啓発をはかりながら、動物救護と飼養動物の同行避難を検討しているところだ。



再質問 人の命のほうが大切なので考えていないという数年前の回答から一歩前進した。実際に避難所を考えるより、まずはパンフレットを作るべきだ。同行避難を可能にするための条件として、散歩や給餌のほかケージの持参などマナーを身につけることを飼い主に理解してもらう必要がある。これにより、通常避難の方にも動物を飼養している方にも大きな安心を与えることになる。ぜひパンフレットの作成をお願いしたい。

町 防災計画の見直しをする中で、様々な要件を解決しなければならず、動物にどれだけスペースをとれるかむずかしいが、パンフレットの作成は来春の狂犬病予防接種に間に合うようになんとか努力したい。

## ●●● 9月議会の一般質疑から ●●●

**白内障の手術** 町で手術が出来るようになったが、今年の実績は。また、町で実施しない対象もあると聞くが、それはどのような基準で行われているか。

**町** 2ヵ月に1回実施していて、平成28年度実績で82例行った。よほどの重度の合併症がある場合を除きほとんど町で実施できる状況にある。ただ、本人が島外を希望したり日程があわなかったりした場合は、医師の判断で本人の希望を優先するよう配慮している。

**資料館移転費用** 旧測候所へ移転する際の機械類の点検と賃借料として約460万円が当初予算に計上されていたが、支庁の展示ホールに変わった場合どのように対応するのか。

**町** 一時移転先で使用する内装やパネル製作、および保管庫や移転先への運搬費用などを12月議会の補正予算で組み替えたいと考えている。



**オリンピック・パラリンピックのメダル製作** 携帯電話などを回収する活動が進んでいるが、町は参加しないのか。

**町** 8月30日から始めた。役場の住民課カウンター前と各出張所で回収を行なっている。

**貸し切りバス** 赤字経営が続くバス事業のなかで貸し切りが増えている。増加した理由はなにか、営業の成果なのか。

**町** 島外の人が貸し切りバスを利用すると料金が3割安くなる（観光客誘致のための町の補助制度）ので、その影響もある。また、去年の九州の災害で行き先が八丈にシフトした経緯もある。営業は続けている。



### 歴史民俗資料館移転・整備検討委員会 (いずれも夜の会議でした)

- 8月22日 移転先として考えている支庁展示ホールの借上げが決定するのは12月になるとの説明を受けた。具体的な展示方法を検討するため、4名のワーキンググループを立ち上げる。また、ふるさと村に生活民具を展示するかどうか議論が及ぶが、結論は保留。
- 9月19日 展示スペースが限定されることが判明した。それを受けて展示方法を議論した。新資料館整備についての意見を聞き、集約するために次回まで各委員がプレゼンをするという宿題がでる。
- 10月27日 一時移転先での展示方法の概要が明らかになる。新資料館についての構想を各委員が発表した。現資料館を改修・改築するという意見と、別の場所に資料館と図書館を併設するという意見がでて見解が分かれた。さらに考察が必要なので結論は次回に持ち越しになった。



### 編集後記

10月に襲来した2つの台風のために、5回も延期された三原小中大運動会が11月9日(木)にようやく行われて、ほっとしました。小学校の運動会では、子どもたちの元気でひたむきな姿に毎年感動してしまいます。

児童数が減るのは止められないとしても、この島の最大の行事が賑やかに続くよう願うばかりです。